ストリートメディア、神田地区での放送波受信、制御実験に成功
―― 放送波を「Touch! ビジョン」で受信し、携帯電話へ情報を取り込む ――

2008 年 12 月 16 日

ストリートメディア株式会社（本社・東京都千代田区、代表取締役社長・大森洋三／以下ストリートメディア社と表記）は 12 月 16 日、放送波をストリートメディア社の開発した次世代型インフォメーションシステムであるインタラクティブデジタルサイネージ「Touch！ビジョン」で受信し、映像情報とともに、データ放送に仕込まれた放送言語（BML）を通信言語に変換し、制御、さらに同期した情報を携帯電話に取り込むトライアルに成功しました。

今回のトライアルでは、神田地区の地域情報番組を TOKYO MX デジタル第２チャンネルで 15 日 27 時 30 分（16 日午前 3 時 30 分）から「なんだ＋かんだ」という 15 分番組として放映。同時に、データ放送に仕込まれた放送言語（BML）を、ストリートメディア社が開発した「Echo（エコー）ブラウザ」により通信言語に変換することで、「Touch！ビジョン」で受信した情報を放送波で制御する事が出来ました。これにより、配信される情報の必要な部分（時間）を、指定の「ン」にそれぞれコントロールしながら配信できる事が証明されました。

また「Echo ブラウザ」により FeliCa デバイスを介して、特別なアプリケーションを用いることなく 3 キャリアの携帯電話に映像にまつわる情報をワンタッチで取り込むことができました。たとえば、画面に飲食店が流れている時にタッチすればその飲食店の情報が、CM が流れている時であればその商品の情報、というように表示ごとの情報が携帯電話からアクセスできます。これにより、ユーザーは簡単に、コンテンツを携帯電話に取得する事ができ、双方向コミュニケーションが可能となるわけです。つまり街頭で、「Touch！ビジョン」に流れる店舗情報等の映像放映時に、携帯電話でタッチすれば、その店舗への「道案内情報」や「セール情報」等を簡単に携帯電話に取得することができ、より多くの人の来店や、売り上げの向上に結びつくことが期待できます。また、「Touch！ビジョン」に携帯電話をタッチする人々の動き（街での動線）や志向をリアルタイムにフィードバックできるため、強力なマーケティングサービスとしても活用できます。

神田駅周辺商店街では 12 月 6 日から約 20 台の「Touch！ビジョン」が設置され、商店街のイベント等とも連動して、街の情報をビジョンに流し、携帯電話でタッチする事で、流れる映像と同期した情報が携帯電話に取り込めるトライアルが始まっています。今回の「番組情報」の追加で、より本格的な実験がスタート。さらに今後約３ヶ月、さまざまなトライアルを実施して行く予定です。

近年多発している災害時等に屋外は「情報過疎」だと言われますが、今後、緊急（災害）情報を流す事も検討しており、この情報ギャップを埋める「媒体」としても、ネットでのように輻輳と無縁でもあり、確実に伝わる仕組みとして期待されています。なお、この実験は神田地区の商店街活性化プランとして経済産業省の公募「平成 20 年度中小商業活力向上事業の第二次公募」に採択されています。

■お問い合わせ先
ストリートメディア株式会社　担当：廣瀬 純一（ひろせじゅんいち）
E-mail：info@streetmedia.co.jp
URL：http://streetmedia.co.jp